A photograph of a modern hospital building with a paved walkway and trees in the foreground. The building is multi-story with large windows and a central entrance. The sky is blue with some clouds. The text is overlaid on the top half of the image.

**令和5年度 愛知県精神医療センター  
医療観察法病棟 地域連絡会議**

**令和6年3月18日(月)**

# 1 入院処遇者の状況

- ① 令和5年度における入退院
- ② 患者数の推移
- ③ 主診断 (ICD10)
- ④ 対象行為
- ⑤ 治療ステージ別平均入院期間
- ⑥ 外出・外泊訓練の実施状況

# ① 令和5年度における入退院

入院	R5.4 ~ R6.2 末	4
	累計	63

転院	R5.4 ~ R6.2 末	0
	累計	10

退院	R5.4 ~ R6.2 末	4
	累計	36

在院中	17
-----	----

静岡県内 医療機関	三重県内 医療機関	奈良県内 医療機関	滋賀県内 医療機関	広島県内 医療機関	神奈川県 医療機関
3	2	2	1	1	1

※ 3/18 大阪府精神医療センターに転院予定あり

帰宅先

自宅	単身アパート	施設 (生活訓練・Gホーム他)	病院 (精神保健福祉法・入院)	その他
6	3	3 22	1 3	2 (タイに帰国)

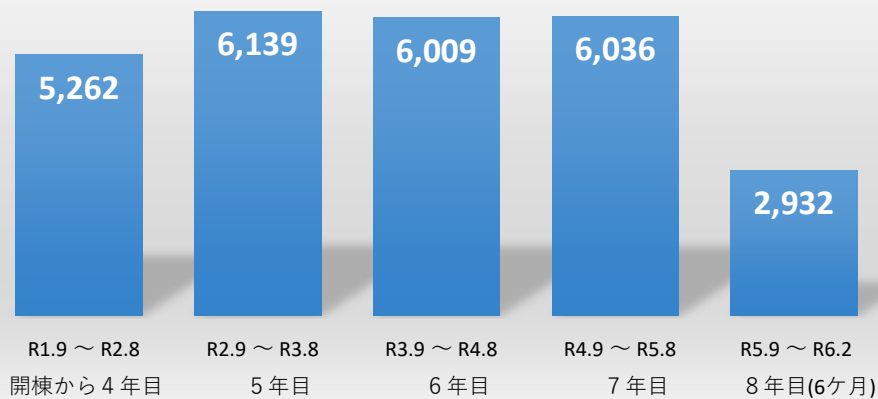
退院者の半数以上が施設退院

退院後

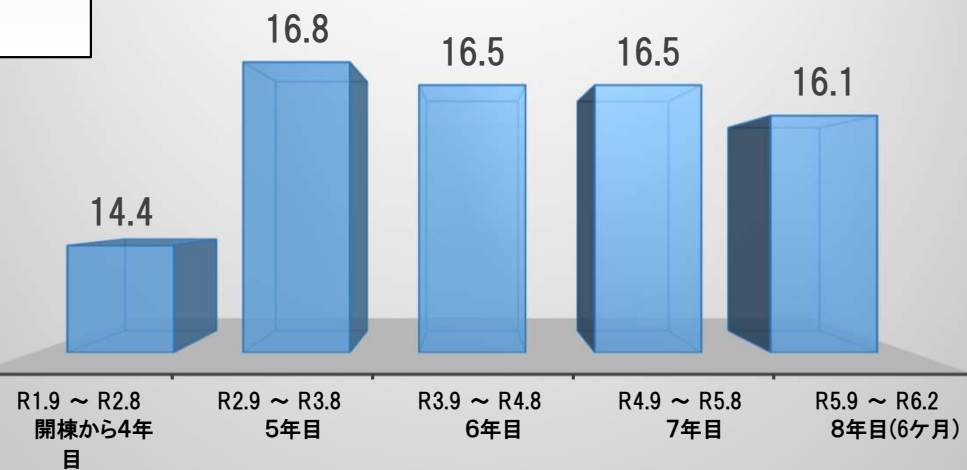
医療観察法による指定通院 (病院の所在地)					医療観察法 処遇終了
愛知県	岐阜県	静岡県	三重県	和歌山県	
3					1
21	6	1	4	1	3

## ② 患者数の推移

### 年間患者数

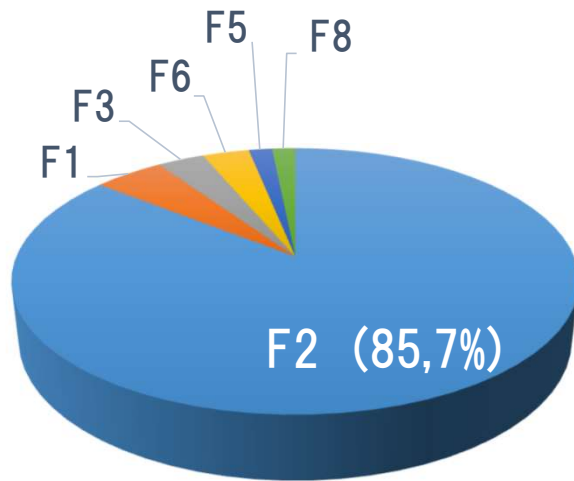


### 1日平均患者数

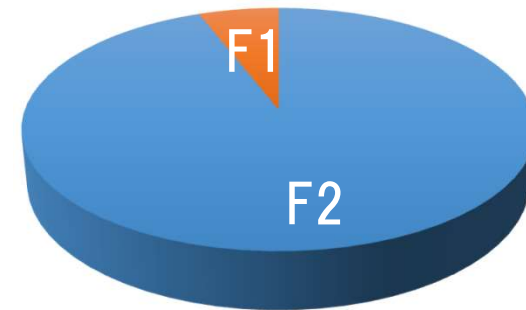


### ③ 主診断 (ICD10)

精神医療センター (入院歴を有する63人)



(2月末現在在院対象者<17人>)

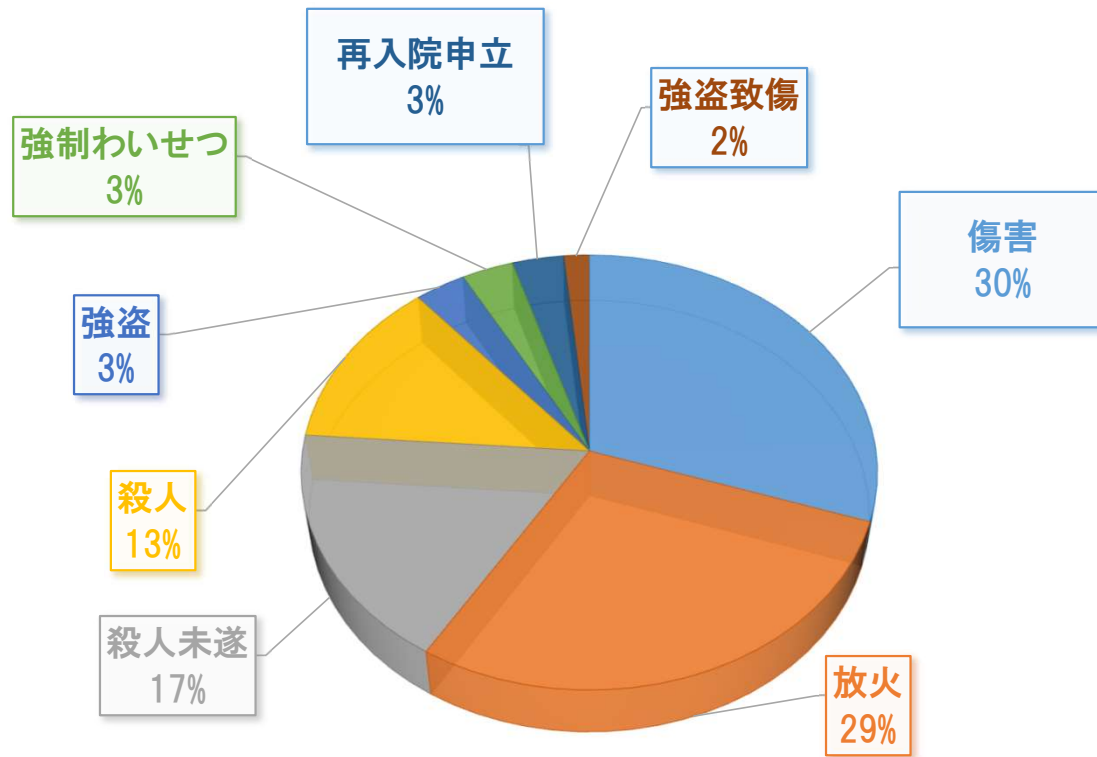


#### ICD-10

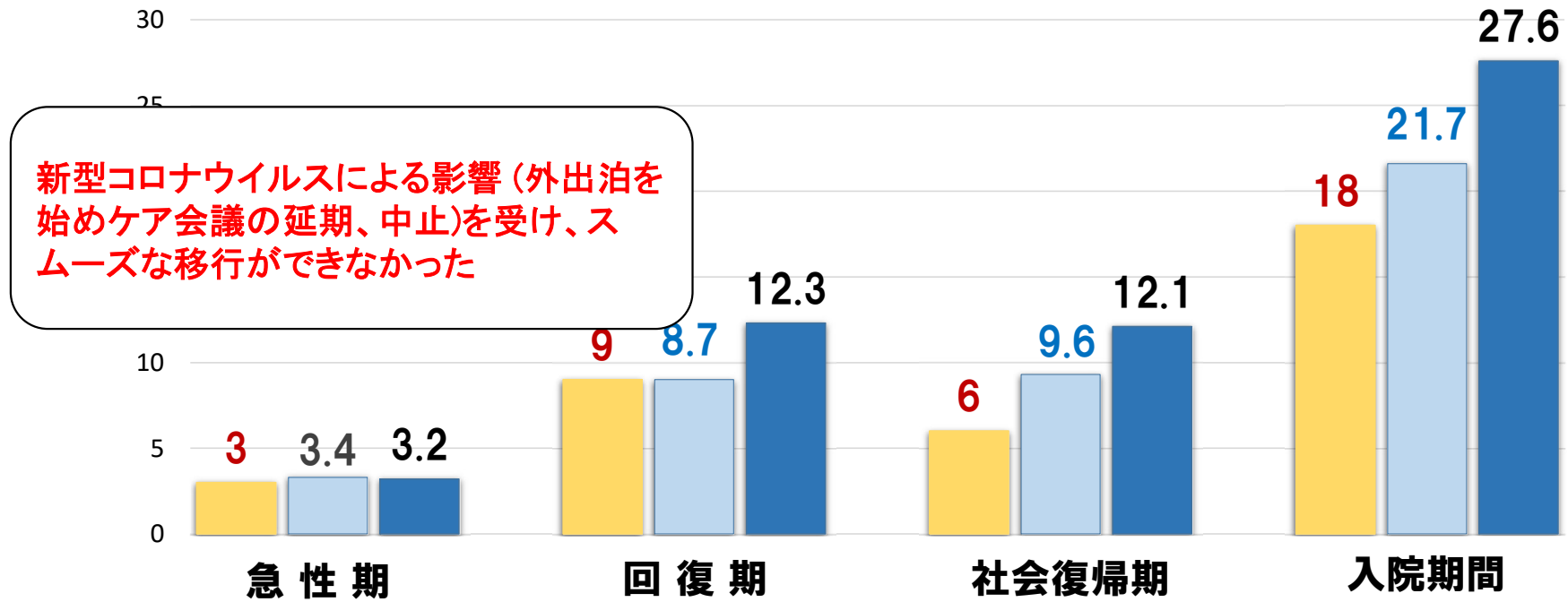
<b>F2</b>	統合失調症・統合失調症型障害及び妄想性障害
<b>F1</b>	精神作用物質使用による精神及び行動の障害
<b>F3</b>	気分(感情)障害
<b>F6</b>	成人の人格及び行動の障害
<b>F5</b>	生理的障害及び身体的要因に関連した行動性障害
<b>F8</b>	心理的発達の障害
<b>F0</b>	症状性を含む器質性精神障害
<b>F4</b>	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害
<b>F7</b>	知的障害(精神遅滞)
<b>F9</b>	小児期及び青年期に通常発症する行動及び機能の障害


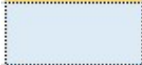

## ④ 対象行為

精神医療センターの入院歴を有する63人



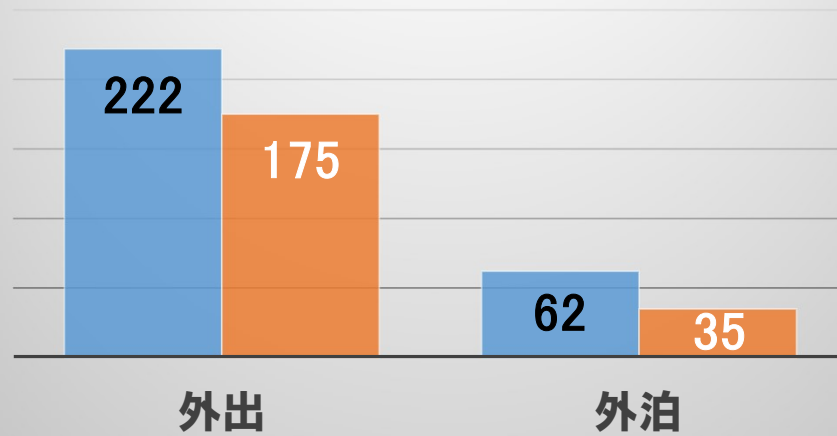
## ⑤ 治療ステージ別平均入院期間（月数）



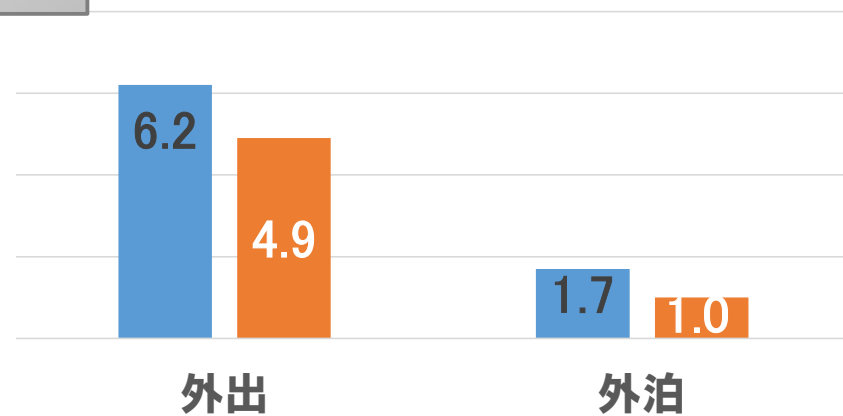
	指定入院医療機関運営ガイドライン
	平成30年9月（開棟3年目）～ 令和2年8月 <2年間—退院16人>
	令和2年9月～ 令和5年8月 <3年間—退院9人(コロナ禍)>

## ⑥ 外出・外泊訓練の実施状況

### 3年間の延実施件数



### 月平均件数



	H29.9 ~ R2.8 (3年間)	
	R2.9 ~ R5.8 (3年間) <コロナ禍>	



## 2 行動制限

(R5.3.1 ~ R6.2.28 < 1 年間 >)

隔離	対象者		入院年月日	対象行為	隔離期間	隔離の原因	備考
	①	I. A (女-40)	R2. 3. 16	傷害	R3. 8. 13 ~ 退院迄の間に16回入退室	暴力・ 器物破損	R5. 7. 11 退院
	②	T. T (男-42)	R3. 12. 20	放火	R4. 3. 6 ~ R5. 3. 7 ( 366 日間)	暴力・ 器物破損	
	③	M. M (女-61)	R4. 3. 16	放火	R5. 5. 14 ~ R5. 6. 22 (40 日間)	不穏	
	④	I. H (男-56)	R5. 11. 16	再入院申立	R5. 12. 27 ~ 継続中	暴力・ 器物破損	
	⑤	T N (男-56)	R4. 4. 26	殺人	R6. 2. 26 ~ 継続中	不穏	

身体拘束	対象者	入院年月日	対象行為	拘束期間	拘束の原因	備考
	該当者なし					

### 3 地域との連携と社会復帰に向けた支援

- ① 病棟見学
- ② 出前講座
- ③ 家族の会（家族教室から改称）
- ④ 地域〇〇プログラム
- ⑤ ピア・カウンセリング

## ① 病棟見学

対象・・・観察法対象者を受け入れている（受け入れる予定のある）施設・事業所

5年度実績（令和6年2月末） 3 回開催 ・ 16人来院

（施設や訪問看護ステーション、相談支援センター等の関係者）

⇒ 「実際に対象者の入院生活環境を見ることで、地域移行のイメージができた」  
との意見が寄せられた。

## ② 出前講座

対象・・・「病棟見学対象施設」と同じ（看護師）

5年度実績（令和6年2月末現在） 4回開催 （障害者グループホーム、老人ホーム）

### ③ 家族の会

- **取組の目的** ☞ 家族の対処技能や問題解決能力の向上

対象者の家族に対して、疾患や社会資源などの情報を伝え、病気や障害の結果もたらされる諸問題や諸困難に対する対処法を習得してもらう。

- **実施方法** ☞ 「標準版家族心理教育」を基に手順書を作成し、家族のこれまでの生活、対象者との思い出や生活歴を振り返り、現在の困りごとに対するアイデアを出し合い、家族の持っている能力の向上や自信回復の援助をする。

- **実施件数** 4件（2024年2月末現在）  
個別→3家族（うち新規2家族） 集団→1グループ（3家族）

- **評価方法** 評価尺度（家族協力度尺度、生活困難度尺度）、アンケート

- **評価** ・ 個別の家族会終了後、医療者にアドバイスを求めるようになったことコミュニケーションの方法を見直すといった発言が聞かれ、問題解決能力の向上につながったと思われる。  
また、今年度から集団の家族会を開催し、「自分にはない意見が聞けてよかった」「話せる場があるのはとてもいい」との意見も聞かれた。  
評価尺度では、自己効力感の向上につながっていることが確認できた。  
今後も継続することで、効果検証をしていく。

## ④ 「地域〇〇プログラム」について

- ・ 対象者が退院後の生活をイメージするお手伝い
- ・ 地域〇〇という名前の由来  
地域 “(生)活“(、)“(移)行“(、)“(社)会(復)帰“(など、  
その人に合ったタイトル にしてもらえたら、との思いから。
- ・ 年に1クール（全3回コース）実施
  - 1回目：社会復帰調整官からの講話「通院処遇について」
  - 2回目：ピアサポーターより「リカバリーストーリー」  
→ 名古屋市登録のピアサポーター様のご協力
  - 3回目：作業所について知る（作業所の紹介、作業体験）  
→ 主に就労継続支援B型事業所様のご協力
- ・ 千種区障害者基幹相談支援センター、名古屋保護観察所との連携で実施

※ 作業体験をすることで、退院後のイメージがついたと好評だった。

## ⑤ ピアカウンセリング

「仲間からの共感」

平成30年6月に医療観察法処遇が終了し、以後、当院に通院中の元対象者をピアカウンセラーとして招聘し、ピアカウンセリングを行った。  
(R5.2.22)

☞ 入院中に感じていた気持ちや、退院後デイケア、作業所への通所をしたことなどの体験を語った。

☞ 様々な人に支えられ、現在があること。

クロザリルの内服により症状が安定し、再入院せずやれていることなどを話してくれた。

### <対象者の反応>

身近な話題であったことから様々な質問があり、また、「実際に同じ病棟を退院された方から話を聞くことができ良かった。」「自分もがんばらないといけないと思った」といった感想が聞かれた。

※ 今年度は、3月22日(金) 東尾張病院の元対象者を招聘し、実施予定。

## 4 入院対象者の無断退去事案

- 概要 社会復帰期に移行後4回目の外泊訓練となる令和6年2月13日から2泊3日の訓練中、訓練2日目の朝 宿泊施設のグループホームから無断退去し、市内南区の自宅に帰宅。
- 対応 警察署に通報。 付き添い看護職員による宿泊施設周辺の搜索。  
病院搜索班が対象者の妹宅(岡崎市)と南区の実家に急行。
- 結末 対象者が徒歩で実家に帰宅したところを実家搜索班が発見、確保。(14時54分)  
パトカーに乗車し帰院。(16時30分)
- 退去の理由 対象者は前々から実家に帰り、母親と暮らしたい願望があった。  
毎日「逃走しろ」との声が聞こえていた。(本人談)
- 再発防止 医療観察法病棟臨時運営会議を開催し、事案の検証、再発防止策の検討
  - ・ 外出泊時に共通評価項目の「内省」「コンプライアンス」の項目を一層重視して評価することとした
  - ・ 運営会議での外出泊訓練の審議にあたり、無断退去を念頭におきより慎重に行うこととした。
  - ・ 外出泊時にGPS付きの機器を所持させるか検討する。

※ 過去の無断退去事案 令和3年3月 2泊3日の外泊訓練中 予定の行程にない行動(自宅付近の床屋で散髪)をとったため、医学的管理下から離れたと見なし無断退去と判断。→ 直ちに訓練を中止し帰院。